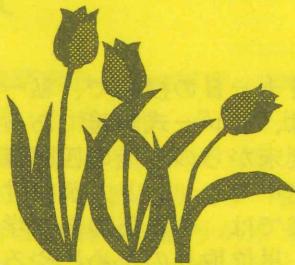


NEWS LETTER



全国大学教育研究センター等協議会

事務局：広島大学大学教育研究センター内
〒739- 東広島市鏡山1-2-2
8512 TEL: (0824) 24-6240
FAX: (0824) 22-7104

協議会の活動に期待して

瀧上 凱令

(神戸大学大学教育研究センター・前センター長)

最近気になっていることがあります。「学生が勉強しなくなった」「大学の先生は教育熱心ではない」というのは本当なんだろうかということです。

私のまわりの学生を見ても、多くはそこそこ勉強しているように見えます。もちろんほとんど勉強をしないで、何とか卒業しようという学生はおられます。また、非常に勉強熱心な学生にも毎年出会います。むしろ、この熱心な学生の中に不安を覚える学生がいます。非常に勉強熱心ではあるが、研究者や専門家を目指しているわけではない学生のことです。現在の多くの大学のカリキュラムは研究者や専門家の養成を目指して作られているように見えます。もしそうだとすると、研究者や専門家にならないけれども勉強熱心だというのはどういうことでしょう。その学生は何を目指しているんでしょうか。何もを目指していない、勉強が面白いだけだということなら、それはそれで大変結構なことといえます。しかし、与えられたことを真面目にこなしているだけだとしたら、そんなに真面目にならなくてもとつい口に出そうになります。適度に勉強しているというほうがどうも健全な感じがしてしまいます。大学は高等普通教育機関といった性格を今後ますます強めていくものと思われます。そんな中で学生にもっと勉強しろと心おきなく言えるような教育目標とカリキュラムとは何でしょうか。

一方、大学の先生は教育熱心でないのでしょうか。私もいくつかの大学の大学教育についての研究会や研修会に出させていただきました。そんなときに先生方がさまざまな工夫をこらした授業をされている事例を聴かせていただきました。みんな苦労しているんだという感想と、みんな熱心じゃないかという感想を持ちます。黄色くなつたノートを十年一日のごとく棒読みするだけといった授業はいわば伝説であつて、それではもはや大学教師はつとまらないといえるでしょう。問題はそれぞれの先生の工夫が私藏されていて、教員全体に共有されていないということのように思われます。これを共有財産にするための活動も、実践課題にも対応すべく設置されたセンターの役割と言えるでしょう。

私が大学改革や大学教育といった問題に関わってから10年になります。センター設置後は6年半、副センター長とセンター長を務めてきましたが、本年2月15日任期満了となりました。この間多くの方々にご指導、ご援助いただきありがとうございました。大学は今後ますます多くの問題に直面するものと思われますが、本協議会が連携を緊密にし、高等教育研究を推進するとともに、大学内外に大学教育の在り方についての提言を行っていただければと願っております。

徒労感の行方—「公開実験授業第一期計画」を終えて—

田中 毎実

(京都大学・高等教育教授システム開発センター)

一月十一日の授業で、私一人が俎の上にのる公開実験授業は、一応、終えることができた。来年度からは、リレー式講義である。通算七十回以上の授業と検討会を続けてきたことになる。ところが、昨年度末からの最後の四回ほどは、とてもつらかった。授業の準備中にも、授業のさなかにも、検討会の途中でも、ふと力が抜けて、もう先には行けないと感じられる瞬間が、たびたび訪れた。

授業では、やる気のある学生たち相手に、あるていど深いやりとりができた。その実感はある。しかし、単位取りのためにやる気もなく参加した学生たちを「変えた」という実感は、あまりない。ほんの少数の学生相手に、深い授業をする。これでは、京大のほかの教養授業とまったくかわらない。自分の姿をビデオで見たり、検討会での批評を受けたりする限り、私自身の授業の技量も思うほどには伸びていない。三年間にわたるセンターの全スタッフでの授業分析の結果、教師と学生たちとの相互行為について、多くの事態が明らかになった。しかし光が増すにつれて、向こう側にいっそう闇が広がる。この授業で学生たちの内面では、いったい何がどう起こっているのだろうか。ビデオや授業評価表や検討会資料のあまりにも膨大な山の向こうには、深くて濃い闇が広がっているのである。

授業後の検討会では、時には、見せ掛けの反省の弁、お世辞、追従、ヘゴモニーをとろうとする強弁、他人を蹴落として自己満足をえようとする弁などが、むきだしでむなしく飛び交った。しかし、参観者たちと授業者がお互いに分かり合う、生き生きとした時間がたびたびあったこともたしかである。検討会の在り方を検討した最後の検討会では、授業研究はこんなゆっくりとした無駄なしには進まないよという、共通理解が成り立った。今日の大学授業研究の水準では、私たちはおそらく、人跡未踏の不毛の大地を前にして立ち尽くす貧しい開拓者である。まずは歩きだし、鍬を入れるほかはない。

科目（コース）履修を強調した新しい単位制度

清水 一彦

(筑波大学・大学研究センター)

アメリカの大学で採用されている単位制度は大きく3つに分類でき、1つはセメスター単位、2つはクオーター単位で、3つはコース単位(course unit)である。前二者はいずれも学期制との関係で考えられた伝統的なタイプであるのに対して、後者のコース単位は学期制とは無関係におよそ1960年代に東部の伝統的な私立大学で導入された比較的新しいタイプの単位制度で、単位の取得よりむしろ科目（コース）履修をより強調するために採用された方式である。

全米の主要大学50校（州立17校、私立33校）の単位制度の実施状況をみると、セメスター単位が29校（58%）、クオーター単位が7校（14%）、そしてコース単位が11校（22%）、その他3校（6%）となっている（1994年度）。上位校では、新タイプのコース単位がセメスター単位に次いで普及していることがわかる。このコース単位は、多くの場合、1学期に週3～4時間のクラス授業を1コース単位で表しており、したがってセメスター単位との比較でみれば、1コース単位が3ないし4単位に相当するものであるといえる。基本的には、1コース単位は1授業科目の単位量と考えてよい。また、学期制によってその要卒単位数の規定は異なるが、セメスター制の下では32～40コース単位が多く、クオーター制下では42～48コース単位となっている。いうまでもなく、学生の卒業までの総学修量は、他の単位制度の場合とほぼ同じである。

関連して、コーネル大学のように、従来の単位修得要件と科目（コース）履修の要件とがセットになっている場合もみられる。同大学はセメスター制をとり、要卒単位数は120セメスター単位であるが、同時にまた全体で最低34コースの履修が義務づけられている。いずれの一つ要件を欠いてはならない。単位数とコースとの関係も詳細に規定され、例えば3もしくは4単位科目は1コース、2単位科目は0.5コース、1単位科目は特別な場合を除き0コース、5もしくは6単位科目は一部を除いて1コース、6単位以上の科目は2コースと換算される。

学修の量より一定の科目（コース）履修に力点を置いたこれらの運用は、従来の単位制度の弱点を補完・補強するものとして注目される。

[共同研究]

大学設置基準の大綱化に伴う学士課程カリキュラムの変容と 効果に関する総合的研究について

協議会の共同研究として申請していた科学研究費が採択され(基盤研究B、1998年度-2000年度、1060万円)、平成10年度には、①第1回全体研究会兼打ち合わせ(於:広島大学 7月31日 清水一彦氏報告)、②訪問調査(全員で、桜美林大学、立教大学、国際基督教大学、東京工業大学、東京医科歯科大学、上智大学、宮崎国際大学、宮崎産業大学、宮崎公立大学、鹿児島大学、金沢工業大学、愛媛大学)、③医学教育、工学教育、一般教育などの最近15年間の雑誌文献リスト(広島大学)、④医学部長会議、理学部長会議など国立大学の各種学部長会議の大学教育に関する文献収集(広島大学)、⑤大学カリキュラムに関する研究会(広島大学)、⑥学生・教員調査グループ研究会(於:神戸大学)および機関調査グループ研究会(於:筑波大学)、⑦研究会(9月14日 広島大学 大学教育研究センター公開研究会「アメリカの学士課程カリキュラムを考える」 松浦良充・明治学院大学、館昭・学位授与機構)の各種研究調査活動を実施しました。

平成11年度は、これをふまえて第2フェーズに入り、全体の動向を共通のものにした上で、各調査の設計に入ることになります。

(事務局 羽田貴史)

新センター紹介

最近、本協議会に関連すると思われるセンターがいくつかの国立大学で設置されています。そこで今回、こうした機関の状況について調査をおこないました。結果は次の通りです。なお情報は、平成11年2月現在のものです。

大学	センター名称	設置年月日	センター長	設置目的
茨城大学	大学教育研究開発センター	H8.5.1	奥 達雄	①教養教育の基本計画、実施計画の作成及びその実施に当たっての各学部等との調整並びに教育課程の改善に関する調査研究及びこれに基づく提案を行う
愛媛大学	大学教育研究実践センター	H5.6.2	小沼 大八	①本学の教育の在り方並びに体系的な教育課程編成の問題点及び改善策等について調査・研究を行うこと ②各学部の教育方針に基づきカリキュラム大綱案を作成して大学教育審議会に提案し、又は報告すること
熊本大学	大学教育研究センター	H9.4.1	北川 浩治	①学内の共同教育研究施設として、教養教育を円滑に運営する。 ②大学教育の改善に資するため、ファカルティ・ディベロップメントに関する調査・研究を行う。
佐賀大学	全学教育センター	H6.4.1	三浦 哲彦	①全学共通科目に係る教育課程の編成及び実施 ②センター及び全学共通科目に関する教育の自己点検評価 ③その他全学教育科目に関すること
山口大学	共通教育センター	H8.4.1	畠地 正憲	①共通教育の企画、編成及び実施計画の立案に関すること ②共通教育の実施に関すること ③共通教育に関する調査及び研究開発に関すること ④その他共通教育に関すること
琉球大学	大学教育センター	H9.4.1	森田 孟進	①共通教育等の企画、調整及び実施に当たる。 ②大学教育の充実・向上のための調査研究を行う。

(作成 南部)

全国大学教育研究センター等協議会名簿

大 学	名 称(センター長)	住 所
北海道大学 Hokkaido University	高等教育機能開発総合センター 前出 吉光 Center for Research and Development in Higher Education	〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 011-706-5247(七) 011-706-5249(事) 011-706-7854(FAX)
東北大学 Tohoku University	大学教育研究センター 星宮 望 Research Center for Higher Education	〒980-8576 仙台市青葉区川内 022-217-7533(七) 022-217-7540(FAX)
筑波大学 University of Tsukuba	大学研究センター 山本 真一 Center for University Research	〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 03-3942-6307(七) 03-3942-6304(事) 03-3942-6310(FAX)
東京大学 University of Tokyo	大学総合教育研究センター 金子 元久 Center for Research and Development of Higher Education	〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 03-5800-6815(七) 03-3812-2111(代表) 内線2390, 2391 03-5802-3372(FAX)
新潟大学 Niigata University	大学教育開発研究センター 小林 昌二 Research Institute for Faculty Development	〒950-2181 新潟市五十嵐二の町8050 025-262-6444 (七) 025-262-6305 (事) 025-262-6304(FAX)
信州大学 Shinshu University	教育システム研究開発センター 細野 明義 Research Center for Educational Programs	〒390-8621 松本市旭3-1-1 0263-37-2860(七) 0263-37-2863 (事) 0263-37-2913(FAX)
名古屋大学 Nagoya University	高等教育研究センター 馬越 徹 Center for the Studies of Higher Education	〒464-8601 名古屋市千種区不老町 052-789-5696 (事) 052-789-5695(FAX)
京都大学 Kyoto University	高等教育教授システム開発センター 荻野 文丸 Research Center for Higher Education	〒606-8501 京都市左京区吉田本町 075-753-3087(事) 075-753-3045(FAX)
神戸大学 University of Kobe	大学教育研究センター 土屋 基規 Research Institute for Higher Education	〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1-2-1 078-881-1212 (大代表) 078-803-7539(FAX) (事業部) 078-803-7640(FAX) (研究部)
鳥取大学 Tottori University	大学教育センター 國歳 真臣 University Education Center	〒680-0945 鳥取市湖山町南4-101 0857-31-5605 (七) 0857-31-6774 (事) 0857-31-6762(FAX)
広島大学 Hiroshima University	大学教育研究センター 有本 章 Research Institute for Higher Education	〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2 0824-24-6230(七) 0824-24-6240(事) 0824-22-7104(FAX)
九州大学 Kyushu University	大学教育研究センター 稻津 孝彦 Research Center for Higher Education	〒810-8560 福岡市中央区六本松4-2-1 092-726-4500(七) 092-726-4525, 4526(事)(タ'イマルイン) 092-726-4530(FAX)

(1999年3月24日現在)